time watch

まりお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ｔｉｍｅ　ｗａｔｃｈ

【Ｎコード】
Ｎ４９６８Ａ

【作者名】
まりお

【あらすじ】
偶然時間を操ることができる時計を手に入れた主人公、意識不明の幼馴染を助けるために過去へと旅立つ

～prolog～

時間を操りたいって思った事ない？
たとえばあの時こうすればよかったとか
もう一度やり直したいとか
もしそれができるとしたら
あなたはいったいどうする？

「カチッカチッ、唯今指定されたページを開いています」
「時間がないそこのあなたに、これがあれば時間を自由に操ることができます♪なんといまだけ２０００円！！」
「・・・・・・・・・・・」
「カチッカチッ、お買い物カートに入れました」
ここがいわゆる人生の分かれ目ってやつだった、クリックしてなきゃ俺の人生どうかわってたんだろう、いまでもそうおもう

「陽・・・・介・・・・・・陽・・・介」
「あ～」
「陽介！！」

「うあああっ！！！」
「うあああっ！！！じゃない、あんたいつまで寝てるつもり！」
「へっ？」
時計をみると、すでに針は7時半をさしていた
「ぎゃあああああああ」
「ほらさっさとし支度して学校いけ！」

「バタンッ！いってきま～す」
俺はパンを口にくわえたまははしりだす

「陽介なにやってんのよ、もう遅刻決定よ！」
「わりいわりい」

いつもの変わらない日常

「こんなときに限って信号赤、車こないしわたっちゃいましょ」
「おいちょっとまてよ！」

そんな日常が、この出来事を境にくずれてゆく

「ブップー！！」
「へっ？」
「キイイイイイイッドーーン！！」

第一話　時計（前書き）

つまらないけど最後まで読んでください

第一話　時計

「意識不明・・・・・・・・・」
「いつ意識がもどるかどうか、ひょっとしたら明日かもしれないし、もしかしたらもう・・・・・・・」
「ッ・・・・・・・・・・・・」

あのとき俺がきづいていれば
こいつがこうならなかった
あのとき俺がとびだす勇気さえあれば
大切な人の笑顔を失わずにすんだ
俺はなにもできなかった
オレハムリョクダ・・・・・・・
ナニモデキナイ・・・・・・・・

「あのとき、俺が・・・・・・」
「ぐすっ・・・・・・違うのよ、あれはあなたのせいじゃない、だから自分をせめないで・・・・・・」
俺はおもわず部屋をとびだしていた
「なんでそんなこというんだよ、いっそ責められたほうが気が楽だよ・・・・・・・・」

家に帰って、まっすぐ自分の部屋にとじこもった

「コンコンッ　陽介～、荷物届いてるからここにおいておくわよ～」
「ああ・・・・・・・・・」
返事を返すと母は下へおりていった
「くそっ時間さえもとにもどせれば・・・・・・・・時間、操る・・・・・あっ！！」
俺は急いで荷物を部屋に運ぶ
「ベリッバリバリ」
袋をやぶりすて箱の表紙に目をやる
「ｔｉｍｅ　ｗａｔｃｈ・・・・・あれは夢じゃなかったんだ」
わらにもすがるような思いでつぶやいた
「あいつが事故にあう前に・・・・・時間よ！もどってくれ！」
怪しげに時計が光を放つ、それと同時に、俺の周囲全てがまき戻したように逆に進んでいく

第3話　くりかえし（前書き）

下手だけどよんで！感想ちょうだい

第3話　くりかえし

「カチカチカチカチ・・・カチ・・・カチ・・・・・・カチ・・・・・・・カチ・・・・・・・・・・・カチ」
一瞬目の前が暗くなり、気がつくと俺は自分の部屋にいた
「ここは・・・あっ　時間！！」
目覚まし時計は7時３０分をさしていた、どうやら本当に時間がもどったらしい
「夢・・・じゃ・・・ないよな・・・」
おれはまだ、この不思議な出来事を信じられなかった、信じられない　それでもこれが現実であってほしい　夢ならば覚めないでほしい、そんな複雑な想いがおれの中で渦巻いていた
「コンッコンッ、陽介～はいるわよ～」
「あ・・・あぁ」
「あら、珍しく起きてるのね、はやく着替えておりてきなさいよ」
そういうと母は部屋をでていった
なにもかわっていない　かわっているのは、机の上に時計　ｔｉｍｅｗａｔｃｈが無造作においてあることだけだった

「いってきまーす」
おれはいつものまちあわせ場所へはしりだす
「陽介、今日はやけにはやいわね、あ～怖い　雪でも降るのかしら」
そこにはあいつが立っていた・・・・・平然と・・・・何事もなかったように

「う・・・うるせえな」
おもわず涙がこぼれそうになったのをこらえて返事をした
「さあ　いくわよ！」
「あっ、まてよ！」
「あ～こんなときに限って信号赤、車こないしわたっちゃいましょ」
「おいちょっとまてって・・・・・・？！」
いま・・・・・・・・　あの時と同じ言葉を・・・・・・・・・・・・・・・

「ブップーー」
「へ？」

悪夢はくりかえされる　何度でも

第3話　言葉（前書き）

あぁ、つまらないのに読んでくれる人がいるなんてぇ！感動

第3話　言葉

「キィィィィィィィィィィイイ」
「椿！！」

また・・・くりかえすのか？
また・・・大切な人の笑顔を失うのか？
いや・・・・・俺は二度と繰り返さない
二度と大切な人の笑顔を失わない！！
たとえ、救えなくても！力がなくても！！・・・・・あいつだけは・・・・・・・・

「あああああああああ！！」
「陽介？！」
きがつくとおれは、椿に向かって走り出していた
「椿！つかまれーー！！」

「ドン！！！」

「・・・介・・・陽・・・介・・・陽・・介・・陽介！！！」
「・・・椿・・・？！おまえ無事だったのか」
「まったく、あんたに助けられたんでしょ！自分でしたことも覚えてないの？」
「だったら助けてあげた俺に礼ぐらいねえのか・・・・・ッ　いててて」
「あんたあたしかばって、地面に体ぶつけてんだから痛くて当然しょ！」
「なんで助けたのに、怒られなきゃいけないんだよ！！」
「あんたが怪我したからよ・・・・・・」
「え？」
「なんでもない！病院いくわよ、さっさと立って！！」
「あ・・・あぁ」

よくきこえなかったけど　いまの一言は　俺をいま　一番聞幸せにしてくれる　言葉のように思えた

「お前あのとき、まじめになんていったの？」
「・・」
「・・」

しばらくの間、長い沈黙がつづいた

第3話　言葉（後書き）

感想ください！　たぶんミスは書ききれないと思いますが

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4968a/

time watch

2010年10月27日10時04分発行